

黒岩探訪

たんぼう

16

KUROIWA
くろいわ

遍照寺・黒岩大日尊

黒岩地区、黒岩小学校にとつても関連深い遍照寺とその大日堂。校内絵画展の取組で五年生が大日堂をテーマに絵を描いています。この機会に今回取り上げます。

黒岩かるたでは「あまちやでにぎわう黒岩大日尊」、校歌一番で「みどり」に明けて「ゆく朝の 大日尊の杜しずか」と歌われています。黒岩探訪11で取り上げたように黒岩小学校は明治七年遍照寺に設立されたのが始まりです。絵を描いている五年生にも、この機会に覚えておいてもらいたいと思います。絵を描く対象は、遍照寺の本堂である大日堂と山門である仁王門に集中していました。お寺のパンフレットに書かれています。由来を要約すると次のようです。

「初め長福寺といい、鎌倉時代末新田氏一族の開基で創立され、下黒岩字芹田にあった。それから三百七十年後江戸時代中頃、高林に移り、

そして明治になつて現在地の字大日に移った」とあります。

黒岩かるたにある「あまちやでにぎわう」のは四月の行事のことで今年の春、地域の人が声を掛けていたことが思い出されます。

また、大日堂の縁の下をくぐるとハシカが軽くすむといわれています。真下の根太（ねだ）には大きなこぶがあり磨かれて光っています。さぞかし、今までたくさん黒岩地区の方々に触られてきたものと思います。境内には、いろいろな石造物もありますので、機会があれば取り上げていきたいと思っています。



上 仁王門を描く五年生

下 大日堂の縁の下の
根太（ねだ）のこぶ